

様式3 【公表用】

令和7年度（令和6年度実績） 宮崎県立美術館運営状況評価票

A：目標を大きく上回った（120%以上） B：目標を概ね達成した（90%以上120%未満） C：目標を下回った（60%以上90%未満） D：目標を大きく下回った（60%未満）

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R6年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見（概要）	総合評価
(1) 収集・保存	①作品の購入及び寄贈作品の受入	作品の購入点数	1点	1点	○瑛九の原点でもあるフォトグラムと同じ技法を使った先駆者であるマン・レイの、レイヨグラフ(リプロダクション)の作品を購入することで、比較展示など瑛九とからめても展示できるようになった。  ●系統立てた作品収集するために情報をを集めているが、特に海外の作品は価格の動向が安定しない部分もあり、タイミングよく出色的の作品が現れることが少ない。 ●美術品等取得基金について、取崩型運用であるためそのままでは基金が枯渇することから、基金の増資方法等を検討する必要がある。	B	A	<p>■所蔵作品の貸出について、多くの作品を貸出していることを全面に押した方がよい。</p> <p>■貴重な作品の寄贈問い合わせは、受け入れた方がよいのではないか。</p> <p>■防虫対策について、季節に合わせて最低年4回は実施したほうがよいのではないか。燻蒸に頼らない対策も必要ではないか。</p>	A
		寄贈作品の受入点数	1点	2点	○瑛九の版画作品で、後刷りは所蔵していた作品だが、より研究価値が高い、瑛九自身による自刷りの2点を受け入れることができた。	A			
	②作品の修復等	作品の修復又は額装	1点	8点	○修復は、経年劣化による亀裂や絵具の浮き・剥落が見られる加藤正の油彩画1点について、浮き上がり接着、剥離・剥落止め、洗浄、補強、裏打、充填整形、補彩を行った。また、経年劣化によるシミや折れ、巻きじわが見られる益田玉城の日本画1点について、洗浄やシミ抜き、折れふせ、表装の新調を行った。 ○額装は、未額装の版画作品5点と、修復後に未額装となっていた瑛九の油彩画1点を実施した。  ●修復、額装ともに実施が遅かった。早めに修復や額装が必要な作品について各展示室担当を中心に集約し、これまでの修復歴や展示スケジュールを考慮しながら、優先順位をつけて計画し、適切な時期に実施する。	A			
	③保存環境の整備	外部委託による環境調査	2回	2回	○年間計画に基づき、2回調査を行った。調査結果を受け、別途トラップ等を用いて継続的に虫の調査または駆除及び防除を行うことができた。  ●扉の開閉が多い出入口や搬入口からの虫の侵入及び空中浮遊菌が多く見られ、改善、対策が必要である。カビ等の館内発生につながる建物の状態も常に点検を行っていく必要がある。	B			
		燻蒸（新収蔵及び館外使用後の作品に限る）	1回	2回	○年間計画に基づき、安全で円滑に燻蒸を実施できた。  ●現在使用している薬剤が生産中止となり、来年度以降は使用できなくなるため、以後の対応について業者とも相談するなど検討中である。	A			
(2) 調査研究	①研究紀要の発行等	研究紀要の発行やインターネット等での公開	1回	1回	○職員1名が1本の論文を執筆した。  ●画像修正等に時間を要し、インターネット上の公開が年度をまたいだ。	B	B		B
	②郷土作家等の情報収集及び作品調査	情報収集及び作品調査	5件	7件	○展覧会や作品収集、紀要執筆に関連して、郷土作家7件（瑛九1件、川越篤1件、藤田穎男1件、橋口竹夫1件、野口徳次1件、益田玉城1件、太佐豊春1件）について電話・メールでの聞き取りや対面（訪問・来館）による情報収集及び作品調査を行った。  ●情報が寄せられても、他業務の関係で十分に調査できないことがある。業務の合理化等につとめ、継続して調査を行う人員や時間の確保などの工夫・改善に努める必要がある。	A			

### 様式3 【公表用】

#### 令和7年度（令和6年度実績） 宮崎県立美術館運営状況評価票

A：目標を大きく上回った（120%以上） B：目標を概ね達成した（90%以上120%未満） C：目標を下回った（60%以上90%未満） D：目標を大きく下回った（60%未満）

運営ビジョン		評 価 指 標	年度間目標	R6年度 実 績 値	内 部 評 価			外 部 評 価	
基本方針	項 目				成 果 及 び 課 題	評価	総合評価	委員の意見（概要）	総合評価
(2) 調査研究	③作品解説等の執筆	作家・作品調書の作成	14件	14件	○新収蔵作品や展示頻度の高い作品を中心に調査や解説文の執筆を行い、展示解説や広報誌等に活用できた。  ●担当業務の合間に縫っての調査・執筆となるため、調査内容が不十分なもの、版画集等のシリーズ全体の調査にとどまつたものもある。長期的な課題となっている調査研究のための十分な時間確保のためにも、業務の合理化等につとめていく必要がある。	B	B	■講演会の参加人数が少ないと思う。募集人数や会場収容人数が少ない。 ⇒アートホールの収容人数を目安に募集して、広報活動に力を入れていく。	B
	④講義・鑑賞会等の実施	講義・鑑賞会等の実施	20回	23回	○年4回のコレクション展では計11回、3本の特別展では計9回の当館学芸員によるギャラリートークや計3回の外部講師等によるギャラリートーク等実施し、作家や作品等に関する調査・研究内容を分かりやすく還元できた。  ●講演会などの時期によっては聴講者の集客に苦労する部分があった。	B		■講演会をオンラインで参加可能にしてほしい。	
(3) 展示	①コレクション展の開催	コレクション展の開催	4回	4回	○年4回の中で、作品の状態や貸出などを考慮しながら、選定及び展示構成を行い、作家補助資料やテーマに則した資料の展示やなども追加作成をして効果的に紹介することができた。 ○当年度のコレクション展の観覧者総数は昨年度を22%上回る実績(7,825人増)であった。特に夏の「たのしむ美術館」では特別展との相乗効果もあり、前年より約7,000人の増加であった。	B	B	■自主企画展等の開催について、『おばけ展』の中で、作品を展示していると記載があるが、内部評価Dとすることは疑問。 ⇒自主企画と捉えてもよいのだが、展示数が4点であり、自主企画展としてとらえることはできないと判断した。	B
		年間鑑賞者	30,200人	35,796人	●団体の多様な利用の仕方も増えているが、海外などからの観光客の対応が不足している部分もあった。Wi-Fiの導入に備え、二次元コード等を活用した案内等を更に増やしていく必要がある。	B		■年間パスポートのようなものあってもよい。	
	②特別展の開催	特別展の開催	3回	4回	○「平山郁夫展」「テオ・ヤンセン展」「19, 20世紀の芸術家とスター」及び「オバケ？展」(3月～5月の開催のため3月分のみ計上)の4回開催。日本画、立体(キネティックアート)、版画(ポスター・デザイン)に加え、コンセプチュアルアートなど当館初のジャンルの展示もあり、幅広い層を対象とすることことができた。 ○実行委員会形式による「テオ・ヤンセン展」や「オバケ？展」など、新たなジャンルの展覧会において初めて美術館に来館する鑑賞者を取り始めた。	A		■ナイトミュージアムやプロジェクトマッピングなど県民へのPRになり、利用機会があると利用者数が増えるのではないか。	
		年間鑑賞者(全特別展合算)	55,500人	45,817人	●質的に高くとも、広報が難しい(作品画像の使用料がかかるものが多いなど)展覧会もあり、来館者獲得に苦戦することとなつた。イベントなどそれぞれ工夫はしていたが大きな集客にはつながらなかつた。また、観光シーズンや遠足の時期を外れた会期となり、団体の来客者が少ない時期もあった。	C		■山梨県立美術館のミレー作品をいつか宮崎県立美術館で展示してほしい。	
	自主企画展等(特別展示を含む)の開催	特別展のうち1回	0回	0回	●自主企画展等はなかったが、「オバケ？展」の中で、「怖い」「不思議」などのイメージで選択した館の収蔵作品を4点展示了。	D			

### 様式3 【公表用】

#### 令和7年度（令和6年度実績） 宮崎県立美術館運営状況評価票

A：目標を大きく上回った（120%以上） B：目標を概ね達成した（90%以上120%未満） C：目標を下回った（60%以上90%未満） D：目標を大きく下回った（60%未満）

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R6年度 実績値	内部評価			外部評価		
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見（概要）	総合評価	
(3) 展示	③館外展示の実施	館外展示の開催	2回	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「旅する美術館・旅してアート」では、五ヶ瀬町と綾町の2会場（計11日間）で総計22点（内、五ヶ瀬18点、綾20点）の所蔵作品を展示・紹介した。関連イベントとして創作体験や作品解説を実施し、2会場で1,438人の入場があった。</li> <li>○幼児から高齢者の方まで幅広い年齢層の方が観覧された。アンケートの感想には、遠方へ出かけずとも近くで開催されたことへの感謝の言葉や、年2回開催して欲しいといった意見・要望、著名な画家の作品を間近で見られたことへの感動の声が多く寄せられ、好評であった。</li> </ul> <p>●市町村の担当者等に過度な負担がかからないように、打合せ時に美術館と開催地とで業務の分担について明確にして共有しておく必要がある。</p>	B	B			B
(4) 教育普及	①成人向け講座等の実施	成人向け講座等の参加者	560人	345人	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アーティスト等を招いたアートトークは、ワークショップも含んだ魅力ある内容で実施できた。（2回実施で計74人）。</li> <li>○県外から専門家を講師として招聘し、県内では体験できる機会の少ない実技講座では「てん刻」と「象がん」を実施した（のべ8日間で62人）。</li> <li>○学校教員向けに美術館を利用した鑑賞活動やキャリア学習等についての講座を実施した。（2日間で計18名）</li> <li>○特別展に関連した講演会を実施した。平山郁夫展（67人）、19、20世紀の芸術家とポスター展（66人）、みやざき総合美術展（58人）。</li> </ul> <p>●参加者増加の為に更なる広報の拡大・充実を検討する必要がある。</p>	C				
	②子ども向け教室等の実施	子ども向け教室等の参加者	580人	1,517人	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども美術教室では、創作体験ができるものとして児童に人気の「こいのぼり de アート」「えのぐであそぼう」「ヒカリでえがこう」に加えて、夏にちなんだ教室「夏をかざろう」を実施した。</li> <li>○鑑賞活動である「名画たんてい団」は3回、各1ヶ月半から2ヶ月程度実施し、975名の参加があった。感想によるリピーターも増えている。</li> <li>○自由に参加できる「子ども美術館DAY！」では、つみきと洗濯ばさみでの造形あそびやエントランスのガラス面に白い紙で雪の結晶を貼る創作体験を実施し、2日間で217名の参加があった。</li> </ul>	A			<p>■美術教室が定員に達して断られることがある。長期休暇中などにアドバイスをもらいながら、作品をつくる機会があるとよい。</p> <p>■教員向けの研修を大々的に行うといい。</p>	B
	③美術図書室・映像施設等の充実	図書・映像等施設の利用者	15800人	14,852人	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アートシアターでは、特別展開催中に関連番組の上映を行ったり、子ども美術教室開催に併せて子ども向けの番組を上映したりして活用促進を図った。</li> <li>○美術図書室では、団体で来館した中学生等に、図書室の役割や展覧会図録が豊富に揃っていることを紹介するなどして利用促進を図った。</li> </ul> <p>●子ども美術教室やおさんぽツアーなどのイベント参加者にも利用を呼びかけていく。</p>	B				
	④館外での教室・講座等の実施	館外教室・講座等の参加者	690人	704人	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旅する美術教室を五ヶ瀬町、綾町で行った。美術教室は旅する美術館開催地の小中学校7校で実施し、266名の児童生徒が参加した。今後は学校以外の団体等へも対象を拡大していく。</li> <li>○旅する美術館では窓に飾るガーランド制作等の創作体験の場を設け、438名の参加があった。</li> </ul>	B				

### 様式3 【公表用】

#### 令和7年度（令和6年度実績） 宮崎県立美術館運営状況評価票

A：目標を大きく上回った（120%以上） B：目標を概ね達成した（90%以上120%未満） C：目標を下回った（60%以上90%未満） D：目標を大きく下回った（60%未満）

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R6年度 実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見（概要）	総合評価
(5)広報・発信	①広報誌の発行	広報誌の発行	3回	3回	○予定通り年3回発行することができた。 ○特別展の会期中に、関連小論文を掲載したものを積極的に配布し、残部がほぼない回もあった。今後も展覧会の作品・作家、イベントの関連記事が掲載されていることを分かりやすく掲示するなどして当館に興味をもっていただく広報誌を発行する。	B	B	■SNSとホームページのアクセス数が伸びている。それに伴い、広報資料の郵送などやめてよいものを検討してもよい。 ■展示会場でスマートフォンに情報が表示される、解説をイヤホンで聞けるなどWi-Fiを利用した取組を検討してほしい。 ■情報誌等への情報提供について、120%超えるためには8回足りないだけである。 また、ホームページへのアクセス数が多く、伸びているっていうことを考えると、内部評価はBだが、外部評価はAでよい。 ⇒改善の余地もあるので、内部評価をBとした。	A
					○昨年度(令和5年度)よりもアクセス数は約4万回多くなり、ここ10年間でも最も多い。	A			
	②ホームページ等の充実	SNSによる情報発信	150回	243回	○ストーリーズでの展覧会開閉幕カウントダウンや、団体の申込状況を適宜発信することで、目標を上回る情報発信を行うことができた。 ○特別展でのSNS広告の実施や、投稿にハッシュタグを付ける、当館に関する投稿に「いいね」を付けるなどしたことで、インスタグラムのフォロワーが1,645人(927人増)、フェイスブックのフォロワーは145人(44人増)となった。(令和7年3月末)	A			
					○教室や講座、イベント案内などについて積極的に情報提供できた。 ●特別展、コレクション展ともに取材対応は多かったものの、プレスリリース自体は時期を逸し少なかった。	A			
	③関係機関への情報提供	情報誌等への情報提供	10回	16回	○定期的な情報提供のほか、単発の提供依頼もあり、ほぼ目標通りの発信ができた。 ●情報提供先について、効果的な広報につながっているかを検証し、継続の有無や提供内容を整理していく。	B			
					○特別展等、発送内容によってスケジュールを組み、計画的に発送を行うことができた。 ●発送先の精選、発送回数の削減を行い、発送業務のスリム化を図る必要がある。	A			
	④広報資料の提供	広報資料の提供(発送)	5回	6回					

**様式3 【公表用】**

**令和7年度（令和6年度実績） 宮崎県立美術館運営状況評価票**

A：目標を大きく上回った（120%以上） B：目標を概ね達成した（90%以上120%未満） C：目標を下回った（60%以上90%未満） D：目標を大きく下回った（60%未満）

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R6年度実績値	内部評価			外部評価		
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見（概要）	総合評価	
(6)連携・参画	①地域におけるアウトリーチ事業の実施	地域でのアウトリーチ事業の実施回数	5回	9回	○「旅する美術館・旅してアート」事業において、当館の収蔵作品展を開催した各会場で創作体験を実施するとともに、開催地である五ヶ瀬町や綾町近隣の小中学校7校で、映像番組上映や日光写真による簡単な作品制作体験を行った。	A				
	②他の文化施設や学校教育、ボランティア等との連携	他館・施設との連携による取組	3件	3件	○南九州アートラインを組織している都城市立美術館と霧島アートの森との連携会議を実施し、各館の運営状況や取組等について情報交換を行った。 ○県立文化施設6館によるイベントカレンダーを年間2回発行した。 ○県博物館等協議会による総会や、年2回の研修会に参加し情報交換等を行った。  ●県立芸術劇場、県立図書館、県総合博物館との4館見学ツアーの利用者が1件もなかった。団体から申込があった際に、こちらから4館ツアーの広報を行い、利用促進を図りたい。また、4館の相互利用についてプレゼント等の検討など連携した取組が必要。 ●近隣大学との連携の拡大・充実を講じていく。	B				
		学校向け美術教材の貸出	8件	20件	○美術教材（アートカード、アートボックス）を、希望する学校に直接貸出を行うことができた。 ○昨年度と比較して、活用件数が2倍以上に伸びた。これまでの広報や団体等へ周知したことが結果につながった。  ●アートカード自体を知らない先生も増えているため、貸出に関する広報を行うことで利用促進を図っていく。	A		■持続可能な社会の構築と言われている。 ■若い方の参加が大事な視点である。 ■「みやざき総合美術展」の出品料は、一般・75歳以上と比べ学生が低額であることをぜひ広めてほしい。	B	
		美術館サポーターの活動	延べ380人	延べ291人	○サポーター全体会を計4回、新規サポーター研修を計2回開催し、主に新聞スクラップやイベント補助、展示関係のサポートを中心に活動することができた。 ○新規サポーターの募集に8名の登録があった。  ●年間を通して参加が少ないサポーターや、参加予定であったが当日来られない方もいらっしゃるため、活動周知や再案内等に取り組み、活動の充実を図る。	B				
		インターンシップ等の受入れ	3件	4件	○キャリア教育にかかる就業体験の場として、生徒の実習を受け入れた。展示室やインフォメーションでの来館者対応業務の補助や講座等の準備、団体対応の実際など、様々な体験実習を提供・実施した。 ○高等学校1校、中学校3校、4校合計14名の生徒を受け入れた。学校の諸事情により受入れを予定していた2校はキャンセルとなった。	A				
	③創作・発表の場の提供	アトリエ利用者数	320人	536人	○計画的に稼働し、一定数の利用者があった。また、リピーターの方による利用も多かった。 ○実技講座の参加者にアトリエの利用案内を行ったり、ポスターやSNSによる広報を行ったりするなど利用促進を図った。	A				
		県民ギャラリー稼働日数	180日	216日	○リピーターの利用者に加えて、新規利用団体、個人が4件あった。	A				
	④みやざき総合美術展	応募点数	1,200点	1,063点	○10代の出品点数は前年の第4回展の155点から181点と出品数が伸びている。  ●出品料が一律500円値上がりしたこともあるってか、出品点数は52点減少した。部門別では、工芸部門が21点、書部門が12点と減少が目立った。	C				

**様式3 【公表用】**

**令和7年度（令和6年度実績） 宮崎県立美術館運営状況評価票**

A：目標を大きく上回った（120%以上） B：目標を概ね達成した（90%以上120%未満） C：目標を下回った（60%以上90%未満） D：目標を大きく下回った（60%未満）

運営ビジョン		評 価 指 標	年度間目標	R6年度 実 績 値	内 部 評 価			外 部 評 価		
基本方針	項 目				成 果 及 び 課 題	評価	総合評価	委員の意見（概要）	総合評価	
	④みやざき総合美術展	鑑賞者	6,700人	5,935人	●昨年度より386人減少した。アンケートの結果を見ると、出品者やその家族の鑑賞者がほとんどのため、出品の有無に関わらず、新たな鑑賞者の開拓が必要である。	C				
(7) 人材育成	①職員の人材育成等	県外研修・視察への派遣割合	50%	81%	○参加可能な研修には、できるだけ参加し、職員間での情報共有に努めた。また、県外美術館等への視察や調査も積極的に行つた。	A	A 委員からの意見は特になし	A		
	②博物館実習の受入	実習希望者の受入割合	100%	100%	○3校から3名の実習希望があり、全員を受入れて実施した。 ●8日間の予定だったが、台風接近に伴い5日半の実習となつた。	B				
(8) 管理・運営	①施設・設備の適切な管理	防災研修・避難訓練等の実施	100%	100%	○7月のメンテナンス休館中に避難経路の確認をしながら自衛消防訓練・避難訓練、救命救急研修を実施した。また、初期消火のための消火器の扱いの練習や消防設備の位置の確認、委託業者による消防設備の解説も行った。 ○特別展監視等員について、マニュアルや消防設備の位置・避難経路を明示した資料を示し、常時危機の意識を持たせるようにした。  ●通報訓練について、通報者だけの訓練となってしまったため、今後の訓練では全職員で共有できるようにする。	B	B 委員からの意見は特になし	B		
		検査等の指摘事項への対応	100%	90%	○空調設備改修工事、1階のWi-Fi工事、展示室内照明設備改修の設計委託を実施した。開館当初導入された設備等において、老朽化等により更新が必要なものについては、引き続き要望を行っていくこととする。  ●県の監査において契約の遅れの指摘事項が1件あり、今後引き継ぎを徹底すること、担当内及び他課との情報共有を一層密にすることとした。 ●施設の老朽化や落雷により、県民ギャラリーの電気系統の異常や各展示室の照明のちらつきが発生し、応急処置で対応している。	B				
	②施設の積極的な活用	施設見学者の受入れ	6,900人	6,414人	○特別展観覧者やリピーターの団体利用者が多く、特に一般の団体件数が増えた。  ●小中学校においては、行事の見直しや精選が行われたためか、感染症対策前より参加人数が減少した。特に小学校の団体件数が減少している。	B	B 委員からの意見は特になし	B		
		アートホールの活用	1,000人	一般537人 美術館事業 1190人	○利用団体へ丁寧な対応を行い快適な施設使用を目指し、満足された様子である。 ○県民ギャラリーの使用団体が併せて使用したり、県や市の関係職員で昨年度に引き続き利用する団体が増加した。	A				